

嗜好品と社会的意識・地位に関する調査（ライフスタイルと社会意識に関する調査）

の結果に関する報告書

調査概要

本調査は、政治や社会に対する価値観、及び社会経済的地位と、嗜好品などの飲食や余暇といったライフスタイルやそのようなライフスタイルの形成メカニズムとの関係性を明らかにすることを目的として行われた社会学的調査である。同内容の調査を2021年1月にも実施しており（https://www.tasc.or.jp/research/pdf/202111_survey_overview.pdf）、その際に3年後（2024年）に行う同内容の調査への継続協力を同意していただいた1948名の方と、今回新たに協力をお願いした1500名の方に対して郵送調査を行った。今回新たに協力を依頼した追加標本の設計は、2021年の調査と同じ枠母集団となるように、2023年12月末時点で23～67歳の男女としており、標本の抽出も同じように日本全国の市区町村を北海道、東北、関東、中部、近畿、中国、四国、九州・沖縄の8地域ブロックと、政令指定都市および東京都特別区、人口15万人以上の市、人口15万人未満の市、郡部という人口規模による4区分を組み合わせた合計32の層に分けたうえで、2023年1月1日時点の住民基本台帳情報に基づいた日本の人口分布に合わせて125市区町村を調査地点として無作為に抽出した。その125市区町村のそれぞれから3町丁目、各町丁目の中から4名を無作為に抽出した合計1500名を計画標本として調査は実施された。計画標本の抽出には原則として選挙人名簿が用いられているが、11地点（市区町村）については選挙人名簿の閲覧が許可されず、住民基本台帳を用いて抽出を行った。調査は2024年1～2月の間に実施され、①2021年からの継続調査分は計画標本1948名のうち、186名が住所不明などにより調査不能となり、有効計画標本は1762名、有効回収数は1417名で回収率は80.42%、②新規調査分は計画標本1500名に対して、8名が住所不明等で調

査不能となったため、有効計画標本は 1492 名で、そのうち有効回収数は 744 名（回収率は 49.87%）であった。次節から、調査結果の概要を簡単に提示してゆく。

調査結果の概要

まずは調査概要でも確認したように、この調査データには追跡調査分の標本と、新規調査分の標本が混ざっている。これらの比率は先ほど見た有効回収数の通りで、追跡調査分が 65%程度を占めている（表 1）。今回の調査全体での有効回収数、つまりこれ以下の単純集計をまとめる際の標本数は 2161 である。

表 1. 追跡・新規の比率

	度数	有効%
追跡調査分（2021-2024）	1417	65.6
新規調査分（2024）	744	34.4
合計	2161	100

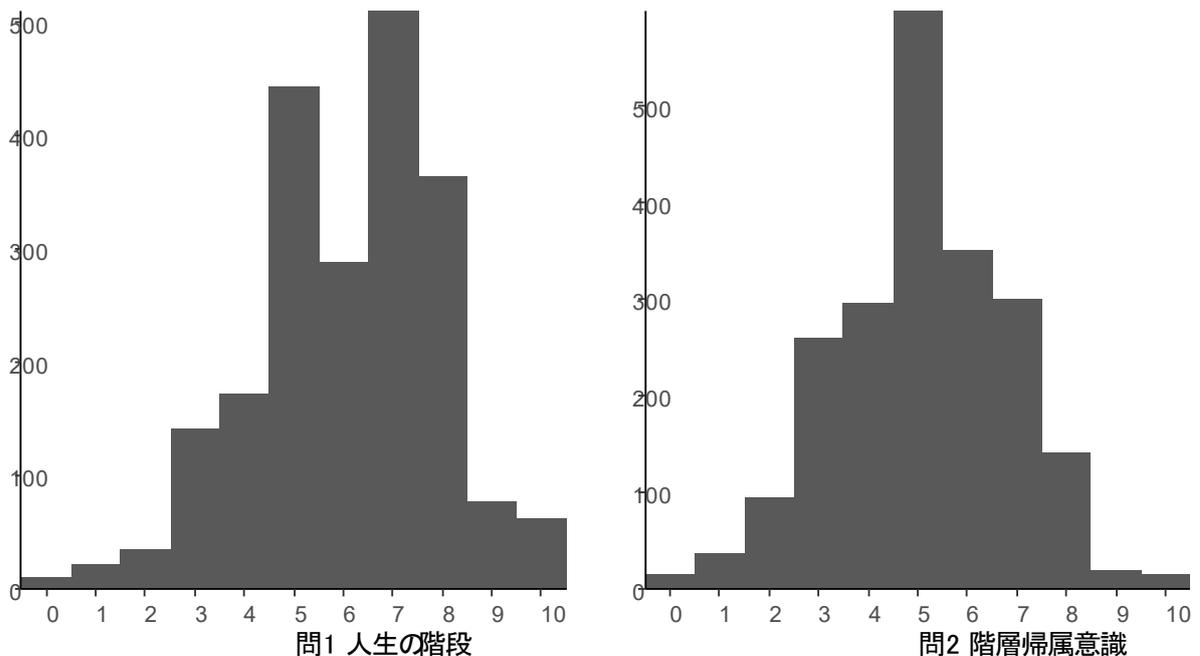


図 1. 人生の段階と階層帰属意識の分布

次に問1の人生の階段と問2の階層帰属意識の分布を確認する(図1)。ともに0~10点までの11件法になっており、問1では数字が小さいほど回答時点で自分の人生を「最低の人生」、数字が大きいほど「最高の人生」と評価していることを示す。問2は数字が大きいほど自分の社会的地位を「上」とであると評価していることを示す。なお、それぞれ欠損値(無回答)が39名と40名含まれており、平均値はそれぞれ6.10と5.10である。

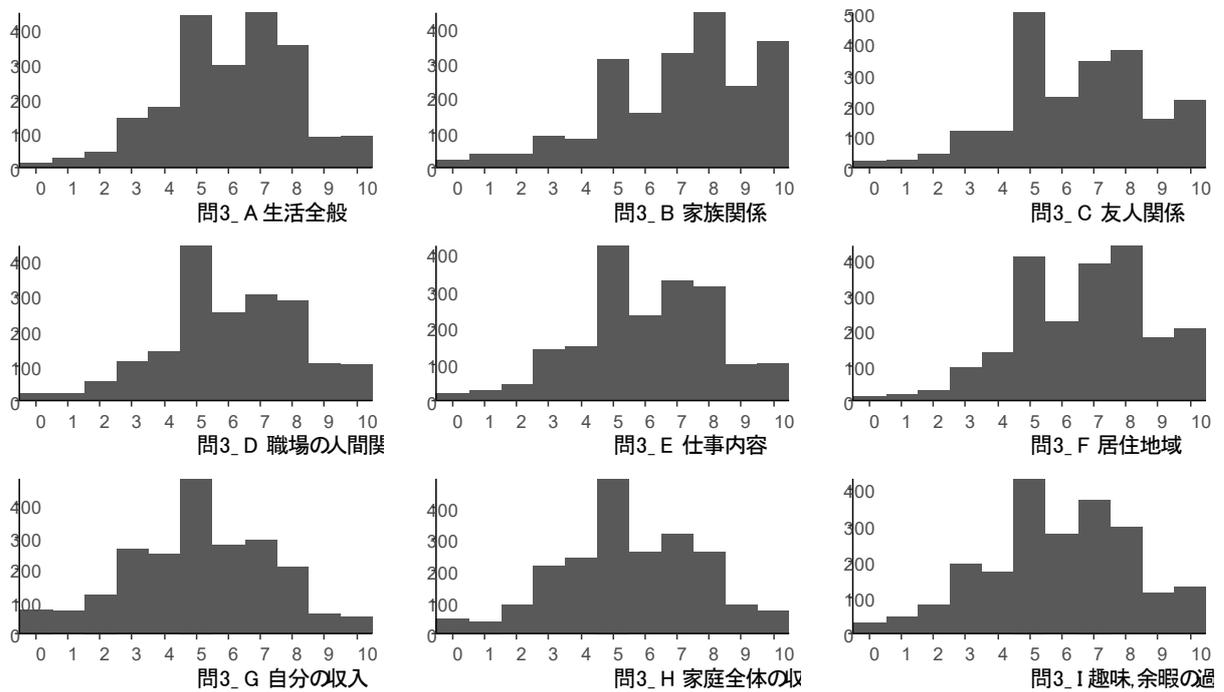


図2. 各種満足度の分布

問3は各種の満足度を測定している(図2)。多くの項目は欠損値が20~30ケースほどだが、B 家族関係、D 職場の人間関係、E 仕事内容については非該当の回答を許容している(家族がない、仕事をしていないというケース)。仕事をしていない場合、自分の収入がない可能性が高いが、収入については0の場合も満足度を回答してもらう仕様になっている。よって、B 家族関係では62ケース、D 職場の人間関係では295ケース、E 仕事内容では285ケースの欠損が生じ

ている。欠損値を除いたときの平均値は6点程度（0～10点の11件法で、数字が大きいほど満足度は高い）の項目が多いが、B 家族関係では7.01、C 友人関係では6.45、F 居住地域では6.65と比較的満足度が高く、逆にG 自分の収入は5.10、家族全体の収入は5.50とやや満足度が低かった。ヒストグラムを見ても、BCFの各項目は分布がやや右に偏っていることが確認できる。

問4は各種文化活動に関する行動の頻度を質問しており、それぞれ「最近三年はしていない」「年に一回から数回」「月に一回くらい」「月に数回」「週に一回以上」の5つの選択肢から最も近いものを選んでもらう形になっている（表2）。B スポーツ観戦はテレビなどを通じての観戦も含めていることから、比較的頻度が高い結果になっているが、多くの活動内容はあまり頻度が高くはなかった。特にI パチンコ、麻雀、ギャンブルやL 短歌や俳句、絵画などの創作、楽器演奏という内容では7割以上が「最近三年はしていない」という回答になっている。

表2. 問4 文化活動の回答分布

(N=2161)	A. スポーツをする		B. スポーツ観戦		C. カラオケ, ボウリング		D. ドライブ		E. 小説や歴史の本を読む		F. スポーツ新聞, 女性週刊誌をよむ	
	度数	有効%	度数	有効%	度数	有効%	度数	有効%	度数	有効%	度数	有効%
最近三年はしていない	954	44.6	292	13.7	1264	59.1	456	21.3	947	44.3	1165	54.4
年に一回から数回	442	20.7	638	29.8	710	33.2	615	28.8	589	27.6	490	22.9
月に一回くらい	189	8.8	379	17.7	122	5.7	426	19.9	245	11.5	262	12.2
月に数回	210	9.8	526	24.6	36	1.7	421	19.7	157	7.4	122	5.7
週に一回以上	344	16.1	303	14.2	7	0.3	218	10.2	198	9.3	101	4.7
合計	2139	100	2138	100	2139	100	2136	100	2136	100	2140	100
欠損値	22		23		22		25		25		21	
	G. マンガをよむ		H. 宝くじを買う		I. パチンコ, 麻雀, ギャンブル		J. 図書館に行く		K. パンや菓子の手作り, 手芸, 園芸, 工作		L. 短歌, 俳句創作, 絵をかき, 楽器演奏	
	度数	有効%	度数	有効%	度数	有効%	度数	有効%	度数	有効%	度数	有効%
最近三年はしていない	790	36.8	1336	62.5	1730	80.7	1414	66.0	1013	47.3	1635	76.3
年に一回から数回	429	20.0	595	27.8	174	8.1	439	20.5	519	24.2	255	11.9
月に一回くらい	248	11.6	77	3.6	87	4.1	137	6.4	248	11.6	85	4.0
月に数回	282	13.1	64	3.0	96	4.5	113	5.3	223	10.4	75	3.5
週に一回以上	396	18.5	66	3.1	57	2.7	39	1.8	138	6.4	92	4.3
合計	2145	100	2138	100	2144	100	2142	100	2141	100	2142	100
欠損値	16		23		17		19		20		19	

問5も同じく文化活動であるが、そもそもそれほど頻繁に実施するとは想定できない種類の活動であるため、「今まで一度もない」「最近三年はしていない」「年に一回くらい」「年に数回」「月に一回以上」という5件法で聞いている(表3)。A国内の旅行や出張は「年に一回くらい」以上の頻度を回答している人が7割程度、E劇やミュージカル、映画館での映画鑑賞の場合も5割以上いる一方で、B海外への旅行、出張は「最近三年はしていない」人が6割、Fクラシック音楽、オペラ、バレエ鑑賞は「今まで一度もない」人が5割超ということから、内容によってかなり頻度は異なっている。

表3. 問5 文化活動の回答分布②

(N=2161)	A. 国内旅行, 国内出張		B. 海外旅行, 海外出張		C. BBQ, キャンプ		D. 美術館や 博物館に行く		E. 劇やミュージカルをみる, 映画館へ行く		F. クラシック 音楽会, オペラ, バレエ鑑賞	
	度数	有効%	度数	有効%	度数	有効%	度数	有効%	度数	有効%	度数	有効%
今まで一度もない	61	2.8	685	31.9	256	11.9	299	14.0	168	7.9	1119	52.1
最近三年はしていない	566	26.4	1294	60.3	1060	49.4	995	46.5	718	33.6	785	36.6
年に一回くらい	645	30.1	124	5.8	501	23.3	519	24.3	582	27.2	145	6.8
年に数回	758	35.4	40	1.9	310	14.4	300	14.0	609	28.5	93	4.3
月に一回以上	113	5.3	2	0.1	19	0.9	27	1.3	63	2.9	4	0.2
合計	2143	100	2145	100	2146	100	2140	100	2140	100	2146	100
欠損値	18		16		15		21		21		15	

問6は社会的な活動など行う(参加する)頻度を質問している(表4)。A投票行動からI栄養バランスの良い食事をとる頻度までの9項目について、「したことがない」「めったにしない」「ときどきしている」「よくしている」「いつもしている」の5件法で質問している。A投票行動、Gごみを減らす工夫、H消費電力を減らす工夫、I栄養バランスの良い食事に関しては頻度が高いが、B市民運動、Cボランティア活動D募金や寄附Fフェアトレード商品の利用は対照的に頻度が低い。E環境に配慮した商品の利用はその中間で、「ときどきしている」人が半分を超えていた。

表4. 問6 社会活動頻度の分布

(N=2161)	A. 国政, 自治体 選挙の投票		B. 市民運動へ の参加		C. ボランティア, NPO, NGO活 動への参加		D. 募金や寄付		E. 環境配慮商 品の利用	
	度数	有効%	度数	有効%	度数	有効%	度数	有効%	度数	有効%
したことがない	71	3.3	1194	56.2	1148	54.0	172	8.1	113	5.3
めったにしない	211	9.9	632	29.8	653	30.7	754	35.5	446	21.0
ときどきしている	337	15.8	227	10.7	226	10.6	959	45.1	1116	52.6
よくしている	426	20.0	49	2.3	57	2.7	170	8.0	377	17.8
いつもしている	1088	51.0	22	1.0	42	2.0	71	3.3	71	3.3
合計	2133	100	2124	100	2126	100	2126	100	2123	100
欠損値	28		37		35		35		38	

	F. フェアト レード商品の 利用		G. ゴミを 減らす工夫		H. 消費電力を 減らす工夫		I. 栄養バラン スのよい食事	
	度数	有効%	度数	有効%	度数	有効%	度数	有効%
したことがない	819	38.7	67	3.1	41	1.9	34	1.6
めったにしない	769	36.3	278	13.1	225	10.6	170	8.0
ときどきしている	429	20.3	1022	48.0	964	45.3	897	42.1
よくしている	78	3.7	516	24.2	642	30.2	738	34.6
いつもしている	22	1.0	246	11.6	254	11.9	293	13.7
合計	2117	100	2129	100	2126	100	2132	100
欠損値	44		32		35		29	

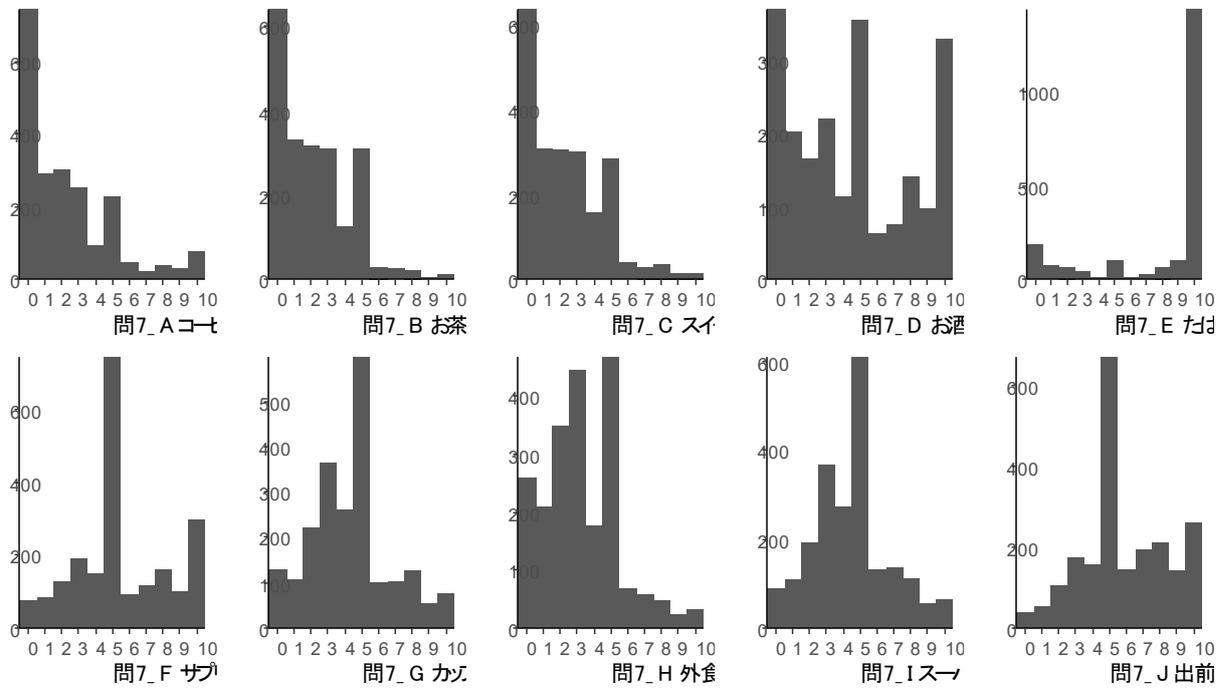


図3. 問7 嗜好品などに対する選好度

問7は嗜好品や飲食に関わるサービスに対する選好度を質問している(図3)回答は0~10までの11件の数値から選択する形式になっており、数字が小さいほどその嗜好品やサービスのごとが好きであるという回答になっている。A コーヒー、B お茶(紅茶やハーブティーなども含んでいる)、C スイーツ・お菓子は0「とても好き」という回答が多くみられている一方で、E たばこについては10「とても嫌い」という回答が大多数を占めている。D お酒については回答がかなり分散していることが見て取れる。その他については5の中間回答を選ぶケースが目立つ。

問8では問7と同種の嗜好品や飲食サービスがどれほど自分にとって重要なものを聞いている(表5)。回答は「非常に重要」から「全く重要でない」までの7件法になっている。A コーヒー、B お茶、C スイーツ、お菓子の回答分布は問7と同様で、重要だと考えている人が多かった。E たばこは「全く重要でない」という回答が7割以上を占め、D お酒とF サプリメントでは2割以上の人が「全く重要でない」と回答していた。

表5. 問8 嗜好品などの重要度

(N=2161)	A. コーヒー		B. お茶		C. スイーツ・お菓子		D. お酒		E. たばこ	
	度数	有効%	度数	有効%	度数	有効%	度数	有効%	度数	有効%
全く重要でない	148	6.9	41	1.9	50	2.4	542	25.5	1562	73.3
重要でない	105	4.9	71	3.3	78	3.7	242	11.4	108	5.1
どちらかといえば重要でない	94	4.4	99	4.7	126	5.9	168	7.9	33	1.5
どちらともいえない	266	12.5	344	16.2	386	18.2	248	11.7	67	3.1
どちらかといえば重要	489	22.9	573	26.9	650	30.6	347	16.3	85	4.0
重要	482	22.6	528	24.8	465	21.9	296	13.9	120	5.6
非常に重要	549	25.7	473	22.2	371	17.5	283	13.3	156	7.3
合計	2133	100	2129	100	2126	100	2126	100	2131	100
欠損値	28		32		35		35		30	
	F. サプリメント		G. カップ麺・インスタント麺		H. 外食サービス		I. スーパーやコンビニの弁当、総菜		J. 出前、フードデリバリーサービス	
	度数	有効%	度数	有効%	度数	有効%	度数	有効%	度数	有効%
全く重要でない	457	21.5	160	7.5	62	2.9	89	4.2	374	17.6
重要でない	330	15.5	214	10.1	105	4.9	162	7.6	407	19.1
どちらかといえば重要でない	242	11.4	314	14.7	188	8.8	241	11.3	349	16.4
どちらともいえない	514	24.2	667	31.3	545	25.6	622	29.2	584	27.4
どちらかといえば重要	379	17.8	534	25.1	664	31.2	645	30.3	287	13.5
重要	140	6.6	183	8.6	398	18.7	279	13.1	100	4.7
非常に重要	62	2.9	57	2.7	166	7.8	90	4.2	28	1.3
合計	2124	100	2129	100	2128	100	2128	100	2129	100
欠損値	37		32		33		33		32	

表 6. 問 9 嗜好品などの摂取（利用）頻度

(N=2161)	A. コーヒー		B. お茶		C. スイーツ・お菓子		D. お酒		E. たばこ	
	度数	有効%	度数	有効%	度数	有効%	度数	有効%	度数	有効%
全く利用しない	125	5.9	46	2.2	37	1.7	458	21.5	1642	77.1
めったに利用しない	84	3.9	88	4.1	75	3.5	284	13.4	44	2.1
あまり利用しない	85	4.0	90	4.2	95	4.5	169	7.9	25	1.2
どちらともいえない	49	2.3	127	6.0	162	7.6	112	5.3	29	1.4
時々利用する	282	13.2	420	19.7	585	27.5	386	18.1	36	1.7
よく利用する	523	24.6	574	27.0	626	29.4	299	14.1	115	5.4
とてもよく利用する	982	46.1	784	36.8	549	25.8	419	19.7	240	11.3
合計	2130	100	2129	100	2129	100	2127	100	2131	100
欠損値	31		32		32		34		30	
	F. サプリメント		G. カップ麺・インスタント麺		H. 外食サービス		I. スーパーやコンビニの弁当、総菜		J. 出前、フードデリバリーサービス	
	度数	有効%	度数	有効%	度数	有効%	度数	有効%	度数	有効%
全く利用しない	583	27.4	91	4.3	54	2.5	70	3.3	606	28.4
めったに利用しない	345	16.2	224	10.5	148	6.9	158	7.4	528	24.8
あまり利用しない	214	10.1	289	13.6	180	8.5	233	10.9	316	14.8
どちらともいえない	200	9.4	231	10.8	216	10.1	248	11.6	227	10.6
時々利用する	389	18.3	886	41.6	943	44.3	891	41.8	373	17.5
よく利用する	230	10.8	315	14.8	440	20.7	423	19.9	64	3.0
とてもよく利用する	167	7.8	94	4.4	149	7.0	107	5.0	18	0.8
合計	2128	100	2130	100	2130	100	2130	100	2132	100
欠損値	33		31		31		31		29	

同様に問 9 では嗜好品などの摂取（利用）頻度を質問している（表 6）。「とてもよく利用する」から「全く利用しない」までの 7 件法であり、ここでも回答傾向は問 7 や問 8 と類似した様子を見せている。そして問 10 では同じく嗜好品などについて 1 ヶ月当たりの消費金額を質問している（図 4）。全く利用しない場合は 0 円と回答するように求めているため、そもそも利用する人が少ない E たばこの場合は消費金額が 0 円という回答が非常に多くなる。また、どの項目にもわずかな人数ではあるが極端に消費金額が多い外れ値が存在しているので参考程度ではあるものの、A コーヒーから順番に平均値と標準偏差を示す（カッコ内が標準偏差）と、A 2180.0 (2467.8)、B 1353.6 (1642.6)、C 2315.5 (2393.9)、D 4006.7 (6798.0)、E 2626.6 (6934.8)、F 1414.6 (3795.2)、G 937.1 (1785.9)、H 6710.8 (9571.8)、I 3390.9 (6351.7)、J 731.0 (1972.7) と、E たばこは特に外れ値の影響が大きいことが読み取れる結果になっている。

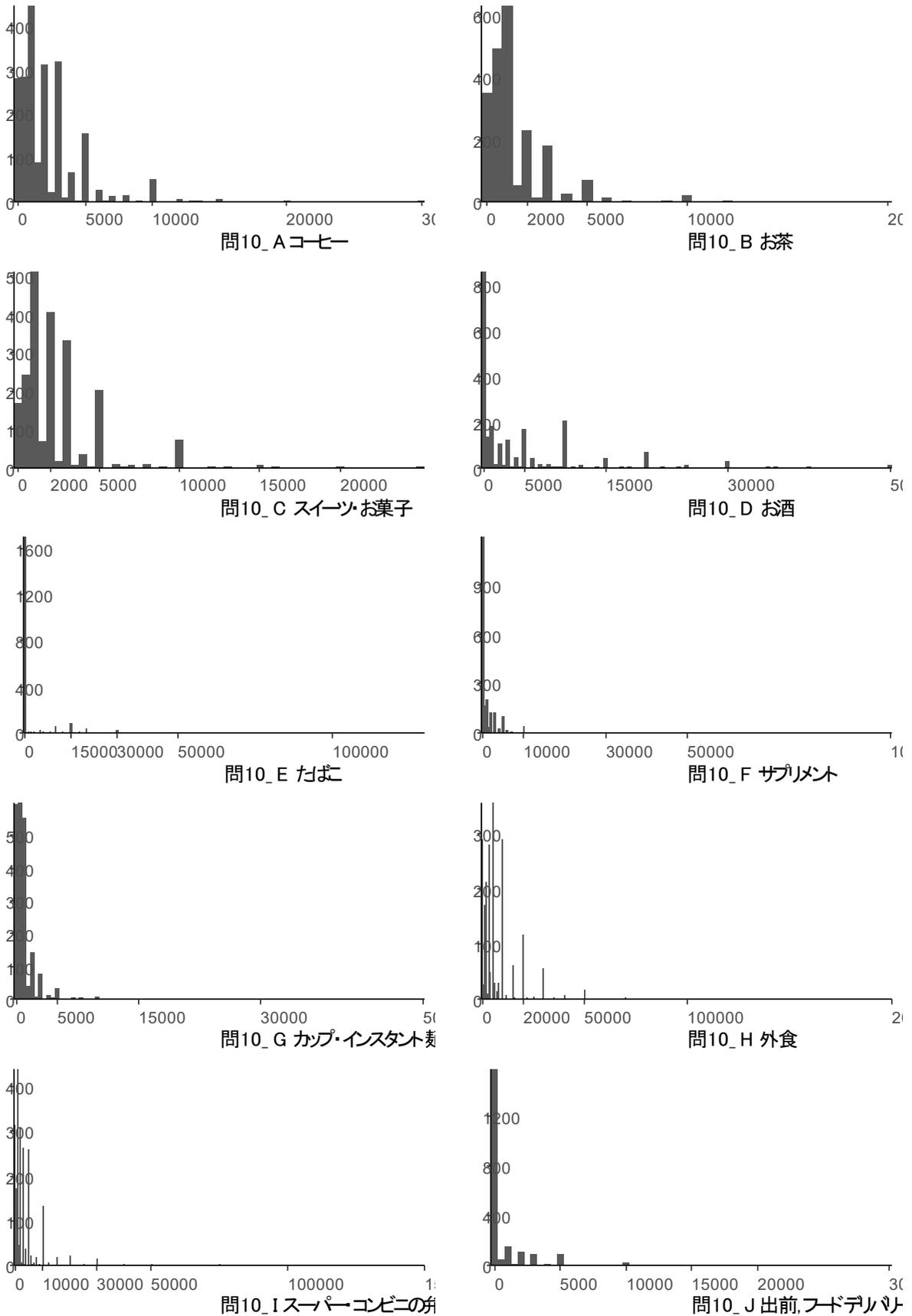


図4. 問10 嗜好品などに対する消費金額 (1ヶ月)

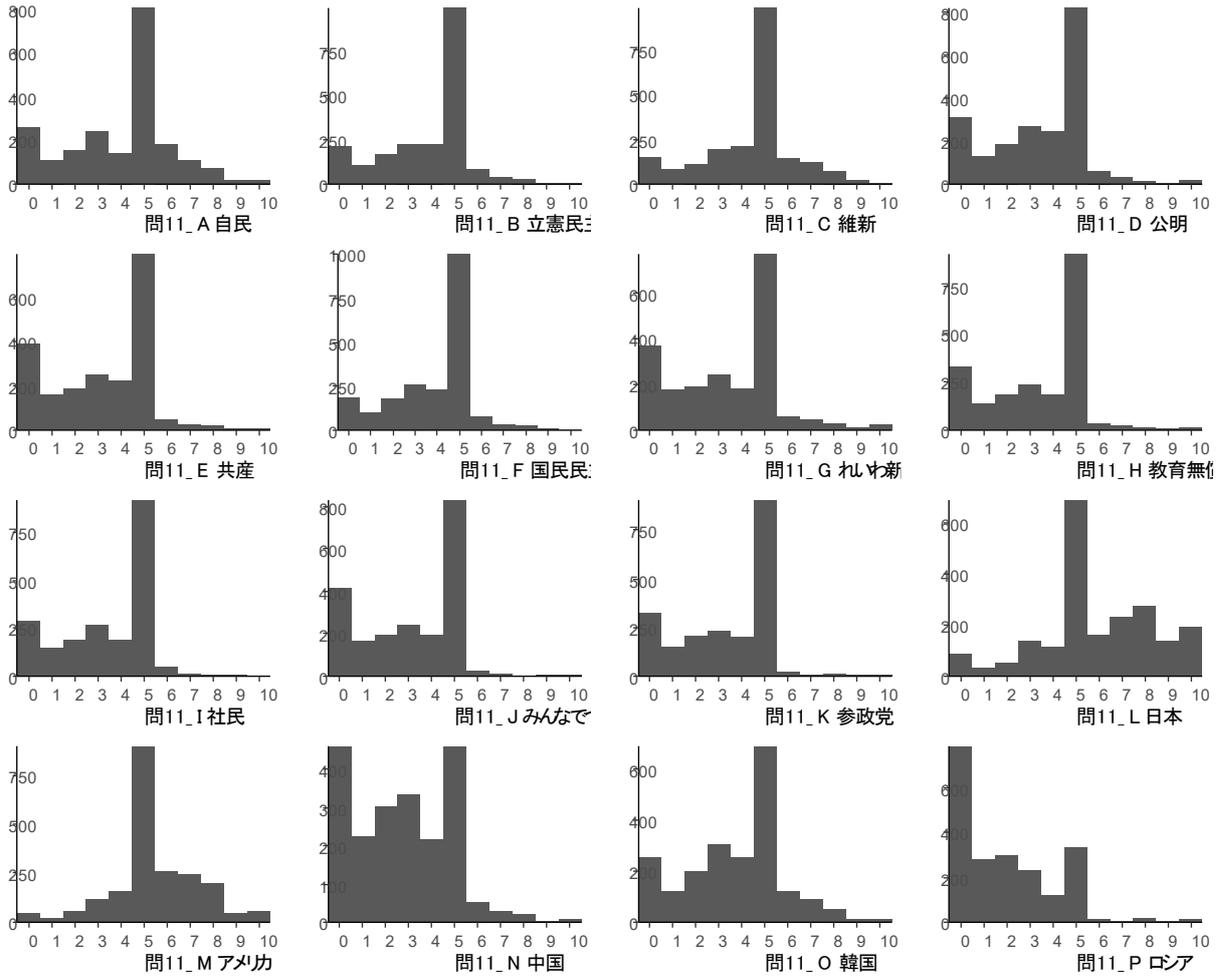


図 5. 問 11 政党や国家に対する好感度

問 11 では国政政党及び日本と近隣の国家に対する好感度を質問している（図 5）。0～10 までの 11 件法で、数字が大きいほど好意的な感情を持っていることを示している。政党によって多少の差はあるものの、基本的には中間回答が圧倒的に多く、それ以外は低い好感度を示す回答の方が、高い好感度を示す回答よりも多くなっている。国家に対する好感度では、L 日本が高く、N 中国と P ロシアに対する好感度は低くなっている一方で M アメリカと O 韓国に対する好感度では中間回答が多くなっている。

問 12 は寛容性を測る項目になっている。A 人種の異なる人々 から E ふだんから外国語を話す人々 までの様々なタイプの人々が自分の身の回りに増えることに対する賛否を 5 件法で聞いて

ている（表7）。B 移民や外国人労働者と C 宗教の異なる人々が増えることに対する賛否は中間回答が多く、その他も拮抗した結果になっているが、その他については、中間回答が多いもののやや賛成寄りの回答が多い結果になっている。

表7. 問12 寛容性の回答分布

(N=2161)	A. 人種の異なる人々		B. 移民や外国人労働者		C. 宗教の異なる人々		D. 同性カップル		E. ふだんから外国語を話す人々	
	度数	有効%	度数	有効%	度数	有効%	度数	有効%	度数	有効%
反対	103	4.8	164	7.7	131	6.1	133	6.2	62	2.9
どちらかといえば反対	304	14.2	411	19.3	343	16.1	236	11.0	188	8.8
どちらともいえない	1060	49.6	1010	47.3	1171	54.9	1035	48.5	1035	48.5
どちらかといえば賛成	476	22.3	415	19.4	343	16.1	444	20.8	546	25.6
賛成	192	9.0	135	6.3	146	6.8	288	13.5	305	14.3
合計	2135	100	2135	100	2134	100	2136	100	2136	100
欠損値	26		26		27		25		25	

問13は様々な社会意識を質問している。A～Cは格差に対する考え方を明らかにする項目群で、D,Eは健康に対する考え方、F～Hは地球環境に対する考え方、Iは社会貢献についての意識、J～Mは政治に対する積極性、Nは一般的信頼感、Oは多様性についての意見、Pは地域の絆に対する意見、Qは主観的な自由の程度を聞いたものである（表8）。どの項目も「そう思う」から「そう思わない」までの5件法で回答が求められている。中間回答である「どちらともいえない」が比較的多く、左右での偏りはそれほど大きくない項目が多い中、K,Lといった政治に対する有効性を聞いた項目では否定的な、つまり政治に対して我々は影響を与えられていないという意識が強く、だがその一方でMの「政治のことはやりたい人に任せておけばよい」という意識に対しても「そう思わない」という回答が多いことから、現状に対する不満が見て取れる。そして、N一般的信頼感とP地域効力感についても共に「そう思わない」「ややそう思わない」という回答が多いことから、集団レベルで社会関係資本の低下がみられると言えるだろう。

表 8. 問 13 社会意識の分布

A. 政府は豊かな人からの税金を増やしても、恵まれない人への福祉を充実させるべきだ		B. チャンスが平等に与えられるなら、競争で貧富の差がついてもしかたがない		C. 競争の自由をまもるよりも、格差をなくしていくことが大切だ		D. 肥満を防止するためなら、お金や時間をかけてもかまわない		E. 老化を防ぐためなら、お金や時間をかけてもかまわない		F. エネルギー資源保護のためなら、便利さや快適さを犠牲にしてもかまわない		
(N=2161)	度数	有効%	度数	有効%	度数	有効%	度数	有効%	度数	有効%	度数	有効%
そう思わない	151	7.1	160	7.5	125	5.9	144	6.7	129	6.0	147	6.9
やや思わない	224	10.5	251	11.8	440	20.7	323	15.1	261	12.2	428	20.0
どちらともいえない	636	29.8	783	36.7	946	44.5	804	37.7	748	35.0	898	42.0
やや思う	747	35.0	722	33.9	475	22.3	686	32.1	769	36.0	590	27.6
そう思う	374	17.5	215	10.1	142	6.7	178	8.3	229	10.7	73	3.4
合計	2132	100	2131	100	2128	100	2135	100	2136	100	2136	100
欠損値	29		30		33		26		25		25	
G. 地球温暖化やオゾン層破壊を防ぐためなら、便利さや快適さを犠牲にしてもかまわない		H. これからは、経済成長よりも環境保護を重視した政治を行うべきだ		I. 社会からなにかをしてもらうよりも社会のためになにかをしたい		J. 国会議員選挙のときに、私たち一般国民が投票することは、国の政治に影響を及ぼしていると思う		K. 私たち一般国民のデモや陳情、請願は、国の政治に影響を及ぼしていると思う		L. 私たち一般国民の意見や希望は、国の政治に反映されていると思う		
(N=2161)	度数	有効%	度数	有効%	度数	有効%	度数	有効%	度数	有効%	度数	有効%
そう思わない	144	6.7	86	4.0	77	3.6	264	12.4	374	17.5	638	29.9
やや思わない	361	16.9	277	13.0	214	10.0	397	18.6	524	24.6	718	33.7
どちらともいえない	775	36.3	1006	47.1	1104	51.7	583	27.4	798	37.4	603	28.3
やや思う	737	34.5	602	28.2	618	28.9	633	29.7	384	18.0	158	7.4
そう思う	119	5.6	164	7.7	122	5.7	252	11.8	53	2.5	14	0.7
合計	2136	100	2135	100	2135	100	2129	100	2133	100	2131	100
欠損値	25		26		26		32		28		30	
M. 政治のことはやりたい人に任せておけばよい		N. 一般的に言って、ほとんどの人は信頼できる		O. 違った考えかたをもった人がたくさんいる方が社会にとって望ましい		P. 近所の人たちは強いきずなで結ばれている		Q. 私の生き方は、おもに自分の考えで自由に決められる				
(N=2161)	度数	有効%	度数	有効%	度数	有効%	度数	有効%	度数	有効%		
そう思わない	588	27.6	367	17.2	72	3.4	392	18.4	98	4.6		
やや思わない	648	30.4	565	26.5	217	10.2	524	24.5	269	12.6		
どちらともいえない	660	31.0	879	41.2	966	45.2	918	43.0	687	32.2		
やや思う	183	8.6	304	14.2	696	32.6	274	12.8	796	37.3		
そう思う	52	2.4	20	0.9	185	8.7	28	1.3	285	13.3		
合計	2131	100	2135	100	2136	100	2136	100	2135	100		
欠損値	30		26		25		25		26			

問 14 は問 13 N の一般的信頼感とは異なり、様々な対象を示したうえで個別にその対象に対する信頼感を 5 件法で質問している (表 9)。A 新聞などのメディアや C 金融機関のような社会インフラおよび多くの公的機関 (H 裁判所など)、教育関係 (J 学校など)、N 近所の人に対する信頼感 は中間回答もしくは「ある程度信頼している」というややポジティブな回答が多いのに

対して、F 政治家、G 国会だけは「全く信頼していない」「あまり信頼していない」という回答もかなり多くみられ、問 13 でも確認された政治への不信感が強く表れている。

表 9. 問 14 信頼感（対象別）の回答分布

(N=2161)	A. 新聞		B. テレビ		C. 金融機関		D. 中央官庁		E. 地方公共団体		F. 政治家	
	度数	有効%	度数	有効%	度数	有効%	度数	有効%	度数	有効%	度数	有効%
まったく信頼していない	78	3.7	141	6.6	36	1.7	96	4.5	67	3.2	499	23.4
あまり信頼していない	224	10.5	401	18.8	219	10.3	310	14.6	259	12.2	890	41.8
どちらともいえない	428	20.1	596	27.9	650	30.6	997	47.0	924	43.6	608	28.5
ある程度信頼している	1292	60.6	954	44.7	1111	52.3	677	31.9	827	39.0	130	6.1
とても信頼している	110	5.2	42	2.0	110	5.2	41	1.9	41	1.9	4	0.2
合計	2132	100	2134	100	2126	100	2121	100	2118	100	2131	100
欠損値	29		27		35		40		43		30	

(N=2161)	G. 国会		H. 裁判所		I. 警察		J. 学校		K. 学者・研究者		L. ボランティア団体	
	度数	有効%	度数	有効%	度数	有効%	度数	有効%	度数	有効%	度数	有効%
まったく信頼していない	448	21.0	58	2.7	53	2.5	65	3.1	38	1.8	86	4.0
あまり信頼していない	800	37.5	234	11.0	268	12.6	269	12.6	160	7.5	358	16.8
どちらともいえない	679	31.9	751	35.3	631	29.6	808	38.0	874	41.1	1067	50.1
ある程度信頼している	196	9.2	933	43.8	1057	49.6	915	43.0	941	44.3	570	26.8
とても信頼している	8	0.4	153	7.2	123	5.8	70	3.3	112	5.3	48	2.3
合計	2131	100	2129	100	2132	100	2127	100	2125	100	2129	100
欠損値	30		32		29		34		36		32	

(N=2161)	M. 家族		N. 近所の人		O. 個人的な友人、知人		P. 自分と異なる宗教の人		Q. 自分と異なる国籍の人	
	度数	有効%	度数	有効%	度数	有効%	度数	有効%	度数	有効%
まったく信頼していない	15	0.7	65	3.1	16	0.8	140	6.6	84	3.9
あまり信頼していない	28	1.3	207	9.7	36	1.7	251	11.8	230	10.8
どちらともいえない	143	6.7	913	42.9	300	14.1	1425	66.9	1444	67.8
ある程度信頼している	732	34.4	840	39.4	1211	56.9	298	14.0	351	16.5
とても信頼している	1210	56.9	105	4.9	566	26.6	15	0.7	20	0.9
合計	2128	100	2130	100	2129	100	2129	100	2129	100
欠損値	33		31		32		32		32	

問 15 で聞いているのは所属・参加している組織やグループで、当てはまる選択肢をすべて選ぶ形式をとっている（表 10）。したがって、所属している組織として選択された度数を合計すると、標本の総数である 2161 を超える。ただし、〈88〉何にも入っていないという回答を選んだ場合は、その他は選ばないことになる。この、何にも入っていない人は 25% を占めている。何かしらの組織やグループに入っている人が残りの約 75% であり、自治会や町内会に参加している人は圧倒的に多く、全体の 50% 強なので、何かしらの組織に入っている人のうち 2/3 (50%/75%) 程度は自治会や町内会に参加していることになる。

表 10. 問 15 所属・参加している組織・グループ（複数回答）

(N=2161)	所属・参加	
	度数	有効%
<1> 自治会・町内会	1141	54.3
<2> 婦人会・青年団・消防団・老人会・子ども会などの地域組織	195	9.3
<3> PTA	252	12.0
<4> 業界団体・同業者団体	150	7.1
<5> 労働組合	278	13.2
<6> 政治関係の団体や会	27	1.3
<7> 消費生活協同組合（生協）	250	11.9
<8> 市民運動・消費者運動のグループ	7	0.3
<9> ボランティアの団体やグループ	108	5.1
<10> 宗教の団体や会	93	4.4
<11> スポーツ関係のグループやクラブ	318	15.1
<12> 趣味の会	234	11.1
<13> 学習のためのサークル	64	3.0
<14> 自助グループ・相互援助グループ	13	0.6
<15> その他の会や組織	19	0.9
<88> 何にも入っていない	529	25.2
有効回答者数	2103	100
欠損値	58	

問 16 では健康状態についての主観的な認識を聞いている（表 11）。半分近くは「ふつう」であり、全体的なバランスとしては健康状態が良くない人よりも良い人の方が多くなっている。

表 11. 問 16 健康状態の分布

(N=2161)	度数	有効%
よい	178	8.3
まあよい	545	25.5
ふつう	1001	46.9
あまりよくない	377	17.7
わるい	33	1.5
合計	2134	100
欠損値	27	

問 17 は性別である（表 12）。男女比はほぼ半分ずつで、女性が 50.6%であった。

表 12. 問 17 性別の分布

	度数	有効%
男性	1068	49.4
女性	1093	50.6
合計	2161	100

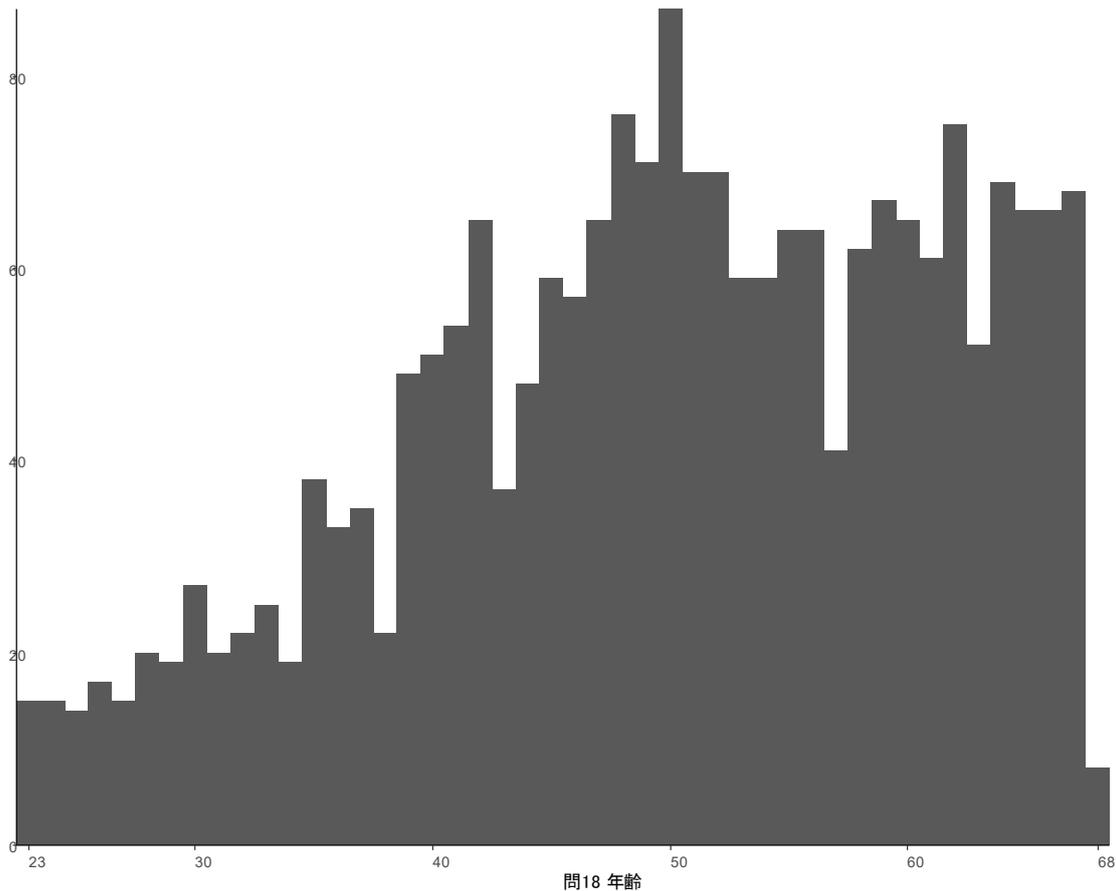


図 6. 問 18 年齢の分布

問 18 は年齢で、対象者の年齢は 23～68 歳の範囲で、若年層が比較的少なく、40 歳を超える層が相対的に多くなっている（図 6）。平均値は 49.9 歳、標準偏差は 11.2 歳であった。

問 19 で聞いているのは最終学歴である（表 13）。高校卒以下が 30%程度、短大・高専・専門学校卒も 30%程度、大卒以上が 35%程度となっている。

表 13. 問 19 最終学歴の分布

(N=2161)	度数	有効%
中学校	23	1.1
高校	652	30.6
短大・高専	262	12.3
各種専門学校	404	19.0
大学（4年制）	685	32.2
大学（6年制：医歯薬等）	12	0.6
大学院（修士課程）	67	3.1
大学院（博士課程）	23	1.1
その他	2	0.1
合計	2130	100
欠損値	31	

問 20 では従業上の地位を質問している（表 14）。全体の半数近くはいわゆるところの正社員である、常時雇用されている一般従業者であった。また、非正規雇用に分類される回答は合計で 25%程度を占めていた。学生や専業主婦（夫）を含む無職の人は 10%強であった。

表 14. 問 20 従業上の地位の分布

(N=2161)	度数	有効%
経営者、役員	109	5.1
常時雇用されている一般従業者	1012	47.6
臨時雇用、パート、アルバイト	380	17.9
派遣社員	57	2.7
契約社員、嘱託	89	4.2
自営業主、自由業者	144	6.8
家族従事者	48	2.3
内職	4	0.2
専業主婦/夫（仕事は全くしていない）	152	7.1
無職（仕事を探している）	43	2.0
無職（仕事を探していない）	80	3.8
学生	7	0.3
その他	2	0.1
合計	2127	100
欠損値	34	

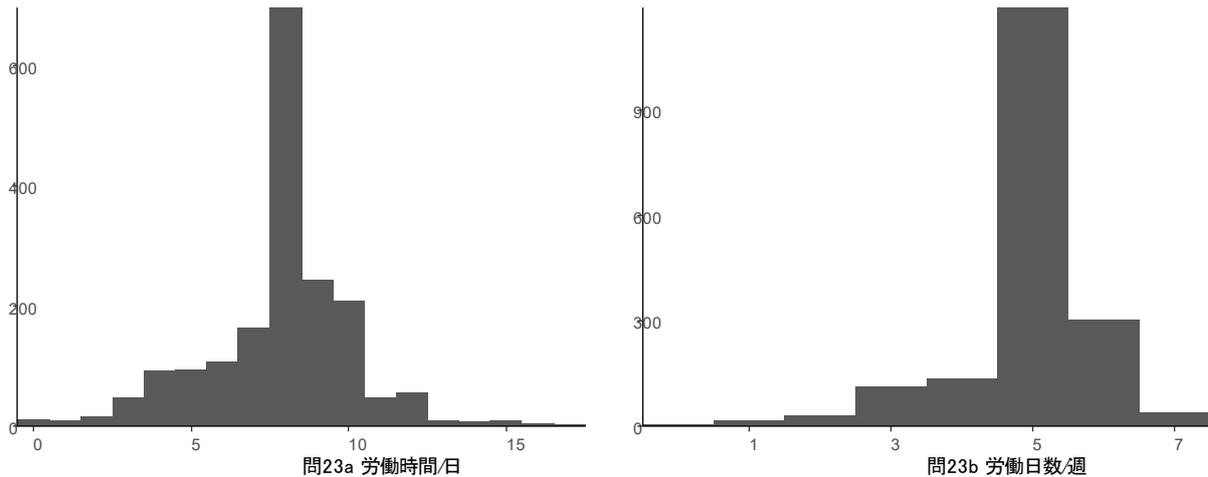


図 7. 問 23 労働時間と労働日数の分布

問 21 と問 22 は勤め先の事業内容と自分の仕事内容を自由回答で聞いているが、この調査速報では報告を割愛する。問 23 では 1 日あたりの労働時間と週あたりの労働日数を聞いている (図 7)。無職の人は答えることは出来ないので、問 23 は 300 以上の欠損値が出ている。労働時間の平均は 7.9 時間 (標準偏差は 2.3 時間)、労働日数の平均は 4.9 日 (標準偏差は 1.0 日) で、それぞれ 1 日 8 時間労働、週 5 日労働という形が圧倒的に多くなっている。

表 15. 問 24 勤め先の従業員数の分布

(N=2161)	度数	有効%
1人	75	4.2
2~4人	158	8.7
5~9人	140	7.7
10~29人	238	13.2
30~99人	310	17.2
100~299人	242	13.4
300~499人	119	6.6
500~999人	119	6.6
1000人以上	342	18.9
官公庁	64	3.5
合計	1807	100
欠損値	354	

問 24 も仕事をしている人にしか回答しない項目で、勤め先の企業規模を明らかにするために、従業員数を質問している（表 15）。勤め先の従業員数 10 人未満が 20%程度、10 人以上 100 人未満が 30%程度、100 人以上 1000 人未満が 25%程度、1000 人以上及び官公庁が 20%程度であった。続く問 25 も同様に仕事をしている人しか回答できない項目で、役職を聞いている（表 16）。70%程度は役職についておらず、その他の役職はどれも 10%未満の分布となっている。

表 16. 問 25 役職の分布

(N=2161)	度数	有効%
役職なし	1274	70.0
監督、職長、班長、組長	122	6.7
係長、係長相当職	109	6.0
課長、課長相当職	119	6.5
部長、部長相当職	68	3.7
社長、重役、役員、理事	123	6.8
その他	6	0.3
合計	1821	100
欠損値	340	

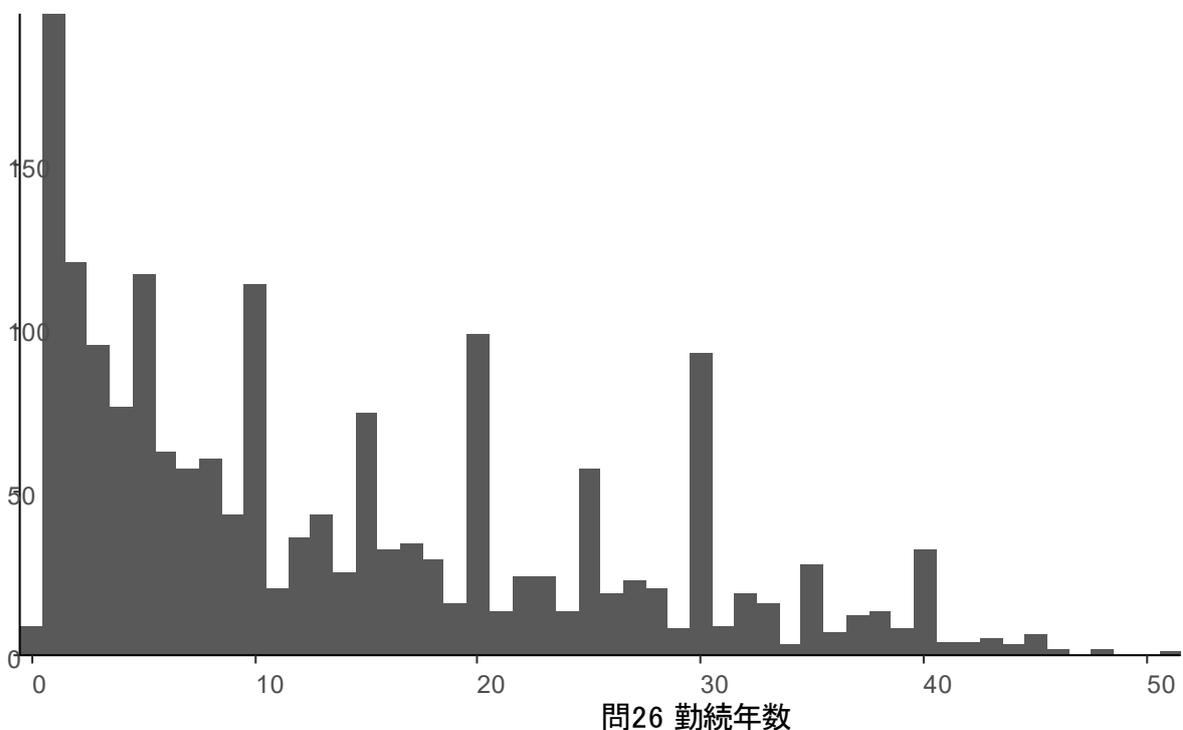


図 8. 問 26 勤続年数の分布

問 26 で聞いているのは勤続年数で、これも仕事をしている人しか回答できない項目である（図 8）。年齢によって勤続年数の上限が定まってしまうので、項目の特性上、勤続年数は短い回答が多くなっている。平均値は 13.8 年で標準偏差は 11.5 年になっている。

問 27 からは再びすべての人を対象にした質問で、離職経験に関する質問になっている（表 17）。働いたことがない人はほとんどいないが、その他の回答は 20%程度を占めるものが多い。最も多いのは 3 度以上の離職経験があるという回答で、30%を超えている。

表 17. 問 27 離職経験の分布

(N=2161)	度数	有効%
最初の勤め先で現在まで仕事を続けている	488	23.2
1度だけやめたことがある	480	22.8
2度やめたことがある	402	19.1
3度以上やめたことがある	716	34.0
働いたことがない	17	0.8
合計	2103	100
欠損値	58	

問 28 で聞いているのは 3 カ月以上の失業や職探しの経験があるかどうかである（表 18）。そうした経験がない人が半分を少し超える程度である。

表 18. 問 28 3 カ月以上の失業・職探しの経験

(N=2161)	度数	有効%
ある	956	45.2
ない	1152	54.5
まだ学校を卒業していない	5	0.2
合計	2113	100
欠損値	48	

問 29 で聞いているのは婚姻状態である（表 19）。未婚の人が 25%、既婚（事実婚を含め、現

在結婚している人)が65%程度となっており、離死別は共にそれほど多くなかった。

表 19. 問 29 婚姻状態の分布

(N=2161)	度数	有効%
未婚(結婚したことがない)	536	25.4
結婚している(事実婚も含む)	1359	64.4
結婚していたが、離別して、現在結婚相手はいない	177	8.4
結婚していたが、死別して、現在結婚相手はいない	38	1.8
合計	2110	100
欠損値	51	

問 30 は子どもの人数について聞いている(表 20)。子どもがいない人と 2 人いる人がともに 30%を超えている一方で、4 人以上子どもがいるという人は少なかった。

表 20. 問 30 子どもの人数の分布

(N=2161)	度数	有効%
いない	755	35.8
1 人いる	334	15.8
2 人いる	671	31.8
3 人いる	282	13.4
4 人以上いる	66	3.1
合計	2108	100
欠損値	53	

表 21. 問 31 子どもの学校段階の分布

(N=2161)	度数	有効%
子どもは小学校入学前	193	14.3
子どもは小・中学生	333	24.7
子どもは高校生以上(学生)	198	14.7
子どもはすでに学校教育を終えた	622	46.2
合計	1346	100
欠損値	815	

問 31 は子どもの学校段階を聞いている（表 21）。質問内容としては、一番年下の子どもが現在どの学校段階にあるかを聞いたもので、本人のライフステージを把握することを目的としている。この項目は子どもがいる人のみ回答する設計になっている。標本の年齢構成の影響もあり、末子がすでに学校教育を終えているという人が有効回答の半分近くを占めている。

問 32 は同居家族の構成についての質問で、一緒に住んでいる人に当てはまるものをすべて選ぶ、複数回答の形式になっている（表 22）。〈13〉ひとり暮らしを選んだ人はその他の項目を選ばないことになり、ひとり暮らしをしている人は 10%程度であった。回答者のうち 60%以上は配偶者と一緒に、そして 45%程度は子どもと一緒に住んでいた。父親と一緒に住んでいる人と母親と一緒に住んでいる人では回答割合で 8 ポイントほど差があり、母親と同居している人の方が多いという結果が得られた。

表 22. 問 32 同居家族の回答分布

(N=2161)	同居している	
	度数	有効%
<1> 配偶者	1314	62.4
<2> あなたの子ども	943	44.8
<3> あなたの父親	330	15.7
<4> あなたの母親	496	23.6
<5> あなたの兄弟姉妹	134	6.4
<6> 配偶者の父親	44	2.1
<7> 配偶者の母親	88	4.2
<8> 子どもの配偶者	15	0.7
<9> あなたの祖父母	31	1.5
<10> あなたの孫	28	1.3
<11> あなたの恋人、パートナー	37	1.8
<12> その他	20	1.0
<13> ひとり暮らし	245	11.6
有効回答者数	2105	100
欠損値	56	

問 33 は全員に回答を求めている項目で、現在の居住形態を質問している（表 23）。全体の 80%

近くが持ち家（戸建てか分譲マンションかは問わず）に住んでおり、一戸建ての住居（持ち家が賃貸かは問わず）に住んでいる人は全体の70%弱となっていた。

表 23. 問 33 居住形態の分布

(N=2161)	度数	有効%
持ち家（一戸建て）	1371	65.0
持ち家（分譲マンション）	265	12.6
借家（一戸建て）	57	2.7
賃貸のアパート、マンション	375	17.8
社宅、寮、官舎	28	1.3
その他	13	0.6
合計	2109	100
欠損値	52	

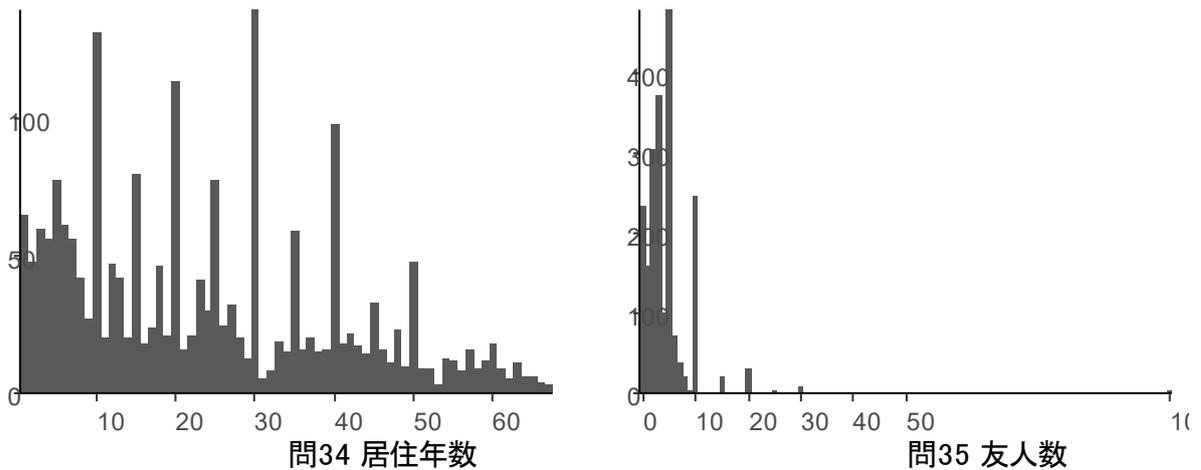


図 9. 問 34 居住年数と問 35 友人数の分布

問 34 の居住年数と問 35 の友人数の分布は共にヒストグラムで示している（図 9）。居住年数は現在住んでいる地域に通算何年住んでいるのかを質問したもので、定義上自分の年齢より長くなることは無いという制限があるので、50 年を超えるような長い居住年数を回答する人は多くない。居住年数の平均値は 23.9 年で標準偏差が 16.6 年となっている。回答分布を見ると 5

年刻みの切りのいい数字に回答が集中している様子が見られるので、おおよその年数での回答が多くみられたと考えられる。そして問35の友人数は親しくしている友人の数を聞いたものである。ほとんどの回答が10人以内であるが、100人という極端な回答も見られている。外れ値の影響が少しあると思われるが平均値が4.6人、標準偏差が5.1人であった。

問36では知り合いにいる職業を複数回答ですべて選んでもらっている（表24）。これはポジション・ジェネレータという本人が有する社会的ネットワークを測定するための項目である。

〈16〉どの職業の人もいないを回答した人はその他の項目を選ぶことはないという形になっており、この項目を選択している人は30%近くに及んでいる。比較的多くの人の知り合いにいたのは〈12〉看護師（40%程度の人を選択）や〈2〉中小企業の経営者（30%程度の人を選択）、〈6〉小学校の教員（25%程度の人を選択）などである。

表24. 問36 知り合いにいる職業の分布

(N=2161)	度数	有効%
<1> 自動車設計技術者	81	3.9
<2> 中小企業の経営者	624	29.8
<3> 自動車修理工	382	18.2
<4> 警察官	437	20.8
<5> 大学教授	230	11
<6> 小学校の教員	535	25.5
<7> 大工	338	16.1
<8> 郵便配達員	181	8.6
<9> 公認会計士	179	8.5
<10> 医師	461	22
<11> 農業従事者	493	23.5
<12> 看護師	841	40.1
<13> 金融機関の窓口係	269	12.8
<14> 建築士	317	15.1
<15> ウェイター・ウェイトレス	139	6.6
<16> どの職業の人もいない	581	27.7
有効回答者数	2097	100
欠損値	64	

問37と38では収入について質問している(表25)。問37は回答者個人の収入を、問38は回答者を含む家族全体での収入(世帯収入)を聞いたものであり、個人収入は本人が無職である場合を考慮して「なし」という選択肢を設けたが、世帯収入では設けていない。逆に他の家族の収入を把握していない場合を考慮して、世帯収入でのみ「わからない」という回答を許容している。個人収入は60%近い人が400万円未満までの範囲に分布しているが、世帯収入になると600万円未満までで45%程度となっていた。個人収入が1000万円以上の人は4.5%であったが、世帯収入の場合は15%を少し超えている。

表25 収入の回答分布

(N=2161)	問37 個人収入		問38 世帯収入	
	度数	有効%	度数	有効%
なし	87	4.1	—	—
1万円以上、200万円未満	573	27.1	113	5.3
200万円以上、400万円未満	604	28.6	419	19.7
400万円以上、600万円未満	407	19.3	439	20.7
600万円以上、800万円未満	238	11.3	360	16.9
800万円以上、1000万円未満	108	5.1	271	12.8
1000万円以上、1500万円未満	77	3.6	266	12.5
1500万円以上	19	0.9	81	3.8
わからない	—	—	176	8.3
合計	2113	100	2125	100
欠損値	48		36	

最後に示すのは調査票にある質問項目ではないが、標本抽出にも利用した地域の分布と、都市規模の情報である(表26,27)。人口分布に基づいて地域と都市規模による層化をして調査地点の抽出を行っている(回収率による差異はあるが)、人口分布から大きく乖離した結果にはなっていない。地域では首都圏を抱える関東地方が調査地点も多いために標本の35%を占めている。都市規模については、郡部を除く各市部がそれぞれ30%程度を占めている。

表 26. 地域分布

	度数	有効%
北海道	95	4.4
東北	135	6.2
関東	772	35.7
中部	415	19.2
近畿	326	15.1
中国	114	5.3
四国	57	2.6
九州・沖縄	247	11.4
合計	2161	100

表 27. 都市規模の分布

	度数	有効%
政令市、特別区	639	29.6
15万人以上市	661	30.6
15万未満市	696	32.2
町村	165	7.6
合計	2161	100